

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

初回作成日:2025年3月13日

前回改訂日:一年一月一日

最新改訂日:2025年12月11日

版番号:第2版

1. 化学品及び会社情報

1.1 化学品の名称

製品名	GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep
製品番号	GA100-110 (Mini 10 回用) GA100-150 (Mini 50 回用) GA100-102 (Mini 200 回用)
バッファー名	バッファーG3 Buffer G3

1.2 化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途	試験研究用実験試薬
使用上の制限	専門ユーザー向け

1.3 提供者の詳細



製造元の会社情報	GENEALL BIOTECHNOLOGY CO., LTD GeneAll Bldg., 303-7, Dongnam-ro, Songpa-gu, Seoul, 05729, Korea
供給者の会社情報	日本ジェネティクス株式会社 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4番14号 後楽森ビル18階 電話番号:03-3813-0961 ファックス番号:03-3813-0962
供給者の緊急時連絡先	電話番号:03-3813-0961 (祝祭日を除く、月曜日から金曜日の午前9時から午後5時30分) Eメール:info@genetics-n.co.jp

2. 危険有害性の要約

2.1 化学品のGHS分類

危険有害性項目	危険有害性区分/細区分
物理化学的危険性	GHS分類基準に該当しない。
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	区分:4
皮膚腐食性/刺激性	区分:1
眼に対する重篤な損傷性/ 眼刺激性	区分:1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分:3(気道刺激性)
環境に対する有害性	GHS分類基準に該当しない。

2.2 GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	  GHS05 GHS07
注意喚起語	危険

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

危険有害性情報	
物理的危険性	物理的危険性のある物質又は混合物ではない。
健康有害性	H302: 飲み込むと有害
	H314: 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
	H335: 呼吸器への刺激のおそれ
環境有害性	環境有害性のある物質又は混合物ではない。
注意書き	
安全対策	P260: 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
	P264: 取扱後は、皮膚/手をよく洗うこと。
	P270: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
	P271: 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
	P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
応急措置	P301+P312: 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。
	P301+P330+P331: 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
	P303+P361+P353: 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水/シャワーで洗うこと。
	P304+P340: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
	P305+P351+P338: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	P310: 直ちに医師に連絡すること。
	P330: 口をすすぐこと。
	P363: 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
保管	P403+P233: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
	P405: 施錠して保管すること。
廃棄	P501: 内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。

3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別

単一製品・混合物の区別	混合物
-------------	-----

3.2 化学名又は一般名

	化学名又は一般名	CAS 番号	濃度又は濃度範囲
①	グアニジン塩酸塩 Guanidine hydrochloride/Guanidinium chloride	50-01-1	40～45%
②	酢酸 Acetic acid	64-19-7	15～20%
注意	本製品に含まれる成分のうち、組成や濃度が営業秘密に該当するものについては、関連法規に基づき、成分名を非公開、濃度を非公開もしくは幅記載としています。また、製品仕様上、濃度にばらつきがある場合は、幅記載としています。SDS に記載がなくとも、危険有害性を有さない成分、法令により開示義務のない濃度未満の成分が含まれている可能性があります。		

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

4. 応急措置

一般的アドバイス	接触または吸入後に、遅れて症状が出る場合がある。 必要な処置をとるために、この SDS を担当医に見せること。
ばく露経路ごとの応急処置	
吸入した場合	患者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸し易い姿勢で休息させること。 症状が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。 皮膚を水/シャワーで洗い流すこと。 炎症や火傷が生じた場合は、医師の診察/手当てを受けること。
眼に入った場合	眼を水で少なくとも 15 分間注意深く洗うこと。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続け、直ちに医師の診察/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。 直ちに医師の診察/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火器、乾燥砂、二酸化炭素消火剤
使ってはならない消火剤	情報なし

5.2 火災時特有の危険有害性

危険有害性	火災条件下で有毒なヒューム(炭素酸化物、窒素酸化物)を生じる。
-------	---------------------------------

5.3 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火を行う者の保護	自給式呼吸器(SCBA)及び必要なすべての保護具を着用すること。 安全に実施できるのであれば、容器に水噴霧して冷却すること。
予防措置	消火用水が排水溝や水路に流入するのを防ぐこと。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する注意事項	皮膚、眼、衣類との接触を避けること。 ミストまたは蒸気の吸入を避けること。 適切な換気を確保すること。
保護具	項目 8 を参照のうえ適切な保護具を着用すること。
緊急時措置	保護されていない人員を漏出箇所から避難させること。

6.2 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	漏出により汚染を引き起こすおそれがある。 漏出物や流出水が、水路、排水路、下水道、閉鎖された区域に拡散されるのを防ぐこと。 環境中に放出しないこと。
------------	--

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

6.3 封じ込め及び浄化の方法・機材

封じ込め及び浄化の方法・機材	不活性吸収材(例:パーミキュライト、乾燥砂)で漏出物を吸収し、適切な廃棄物容器に入れること。
	漏出物の回収が完了した後、汚染された区域を多量の水で洗い流すこと。
	漏出物が排水溝や水路に流入するのを防ぐこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 取扱い

安全取扱注意事項	皮膚、眼との接触を避けること。
	ミストまたは蒸気の吸入を避けること。
	換気の良い場所でのみ使用すること。
	適切な個人用保護具を着用すること。
	取扱い後は手を十分に洗うこと。

7.2 保管

安全な保管条件	容器を密閉し、涼しくて換気の良い場所に保管すること。
	強塩基、酸化剤、反応性金属から離して保管すること。
	元の容器で保管すること。

7.3 その他の情報：特定の最終用途は、項目 1.2 を参照すること。

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理指標

労働安全衛生法	酢酸:短時間濃度基準値 15ppm
ばく露限界(日本産業衛生学会)	酢酸:10 ppm (25 mg/m ³)
ACGIH ばく露限界	酢酸:TWA 10ppm, STEL 15ppm
生物学的ばく露規制(BEI)	データなし

8.2 設備対策

ばく露を軽減するための設備対策	空气中濃度をばく露限界以下に維持するため、局所排気換気装置を設置するなどして、適切な工学的管理措置を実施すること。
	作業場所の近くに緊急用洗眼器及び安全シャワーを設置すること。

8.3 保護具

呼吸用保護具	換気が不十分な場合やばく露限界を超過した場合は、承認された適切な呼吸用保護具を使用すること。
手の保護具	耐薬品性の手袋
眼及び/又は顔面の保護具	サイドシールド付き安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	耐薬品性の保護衣

9. 物理的及び化学的性質

物理状態(外観/形状)	液体
色	無色
臭い	無臭
臭いの閾値	データなし
融点/凝固点(軟化温度/範囲)	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

可燃性(液体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/ 可燃限值	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
粘度	データなし
分子量	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	指示に従って使用及び保管した場合には反応しない。
化学的安定性	指示に従って使用及び保管した場合には化学的に安定している。
危険有害反応の可能性	不燃性水溶液 熱分解により、有毒で腐食性のヒューム(例:窒素酸化物、酢酸蒸気)が発生する可能性がある。
避けるべき条件	高温
混触危険物質	強塩基、強酸化剤、反応性金属
危険有害な分解生成物	火災条件下で、窒素酸化物、酢酸蒸気、その他の刺激性/腐食性のガスが発生する可能性がある。

11. 有害性情報

11.1 バッファーG3

危険有害性項目	内容
急性毒性(経口)	飲み込むと有害
急性毒性(経皮)	利用可能なデータに基づき、分類されない。ただし、接触により重度の皮膚刺激または火傷を引き起こす可能性がある。
急性毒性(吸入)	ミストまたは蒸気は呼吸器への刺激を引き起こす可能性がある。(特定標的臓器毒性(単回ばく露):区分 3(気道刺激性))
皮膚腐食性/皮膚刺激性	グアニジン塩酸塩および酢酸の存在により、重度の皮膚刺激および化学火傷を引き起こす。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	重篤な眼の損傷。 ばく露により、重度の刺激、角膜損傷、永久的な眼の損傷を引き起こす可能性がある。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	利用可能な成分情報に基づくと、呼吸器感受性物質であるとは予想されない。 成分情報(グアニジン塩酸塩)によると、皮膚感受性は陰性である。
生殖細胞変異原性	グアニジン塩酸塩は、標準的な遺伝毒性試験において陰性である。
発がん性	この混合物の成分はいずれも、IARC、NTP、またはOSHAにおいて発がん性物質としてリストされていない。
生殖毒性	利用可能な成分情報に基づくと、生殖毒性を引き起こすとは予想されない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ミストまたはエアロゾルの吸入は、咳、喉の痛み、および呼吸器の刺激を引き起こす可能性がある。

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	情報が不足しているため、分類できない。
誤嚥有害性(吸引性呼吸器有害性)	物理化学的特性(水溶液、低粘度)に基づく、誤嚥性有害性を示すとは予想されない。
その他	ばく露により腐食性物質に起因する症状が現れる可能性がある:灼熱感、咳、呼吸困難、胃腸障害(摂取した場合)

11.2 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分 4	ラット LD50 値 1120mg/kg、908mg/kg(推)、774mg/kg(雌)(IUCLID(2000))が全て区分 4 に該当している。
急性毒性(経皮)	区分外	ウサギの LD0 値が >2000 mg/kg(IUCLID(2000))により区分外とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS の定義における固体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	データなし。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	区分外	ラットの LC50 値が 5.319 mg/L(IUCLID 2000)より、区分外とした。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 2	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)により「強い刺激性(highly irritating)」を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2 とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A	ウサギを用いた試験(EPA ガイドライン)において、刺激性(irritating)を示し(IUCLID(2000))、さらに EU 分類において Xi; R36/38 であることから、区分 2A とした。
呼吸器感作性	分類できない	データなし。
皮膚感作性	分類できない	モルモットを用いた皮膚感作性試験(Buehler Test)(EPA ガイドライン)において感作性なしの記載(not sensitizing)(IUCLID(2000))があるが、List 2 のデータであるため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo 変異原性試験のデータがなく分類できない。なお、エームス試験(in vitro 変異原性試験)では陰性結果(IUCLID(2000))が得られている。
発がん性	分類できない	データなし。
生殖毒性	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	分類できない	データなし。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	分類できない	データなし。
誤嚥有害性(吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

11.3 酢酸

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
急性毒性(経口)	区分外	ラットの LD50 値=3310、3530 mg/kg(PATTY(5th, 2001))に基づき、JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5)とした。
急性毒性(経皮)	区分 4	ウサギの LD50 値=1060 mg/kg(PATTY(5th, 2001))から区分 4 とした。
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外	GHS の定義における液体である。
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない	ラットの LCLo=16000 ppm(PATTY(5th, 2001))は区分 4 あるいは区分外に相当することから分類できないとした。なお、飽和蒸気圧濃度の 90%(20394.7ppmV * 0.90 = 18355ppmV)より低いので、分類にはガスの基準値を適用した。
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分類できない	データなし。
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分 1	ウサギあるいはモルモットを用いた試験(PATTY(5th, 2001)、ACGIH(2004))において、刺激性の程度はばく露の濃度と時間に依存し、特に 50~80%以上の濃度では重度の熱傷と痂皮形成が観察されている。かつ、EU 分類では C;R35 であることから、区分 1 とした。なお、pH は 1.0M=2.4(Merck(14th, 2006))、である。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1	ウサギ眼に氷酢酸を適用直後に破壊的損傷を生じた(ACGIH(2004))と、別の試験で10%以上の濃度で永続的角膜損傷を伴う重度の刺激性を示した(IUCLID(2000))と、ヒトで誤って眼に入れてしまった後直ちに洗浄したにも拘らず角膜混濁や虹彩炎を起こし、上

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

		皮の再生に何ヶ月も要し特に角膜混濁は永続的であったとの症例報告(PATY(5th, 2001))もあり、区分1とした。
呼吸器感受性	分類できない	酢酸による惹起に陽性反応を示した気管支喘息の患者や、アルコールまたは酢酸にばく露されI型過敏性反応類似の反応を呈したヒトが報告されている(PATY(5th, 2001))。またエタノールにアナフィラキシー反応と酢酸に即時型アレルギーを示したとの報告もある(HSDB(2005))。しかし、以上の報告は極めて稀な症例であり、またその他にヒトに対する報告や動物による試験報告などはなくデータ不足のため分類できない。なお、当該物質と喘息発作の関連性は否定できないため、取り扱いには十分な注意を要する。
皮膚感受性	分類できない	データなし。
生殖細胞変異原性	分類できない	in vivo の試験結果がないので分類できないとした。in vitro 変異原性試験ではエームス試験および CHO 細胞を用いた染色体異常試験でいずれも陰性の結果(PATY(5th, 2001))が報告されている。
発がん性	分類できない	酢酸・無水酢酸生産工場の大規模な疫学調査(PATY(5th, 2001))が実施され、労働者 1359 人のコホートで癌による死亡を評価の結果、前立腺がんでの増加(6 例)を除き全ての癌による死亡が減少した。前立腺がんによる死亡の解釈は困難と結論されている(PATY(5th, 2001))が、いずれにしてもデータ不足のため分類できない。
生殖毒性	分類できない	ラットを用い出産から 18 日齢までばく露した試験(PATY(5th, 2001))およびマウスの器官形成期に経口投与した試験(HSDB(2005))授乳影響あるいは仔の発生に対する悪影響の記載はない。しかし、交配前からのばく露による親動物の性機能および生殖能に及ぼす影響に関してはデータがないので分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分1(血液、呼吸器系)	ヒトで氷酢酸または大量の酢酸を摂取後、播種性血管内凝固障害、重度の溶血、虚血性腎不全を起こした症例報告が複数あり(PATY(5th, 2001)、ACGIH(2004))、区分1(血液)とした。また、ヒトで吸入暴露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載(PATY(5th, 2001))、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」との記述(ICSC(J)(1997))があり、実際に石油化学工場での事故によるばく露で気道閉塞と間質性肺炎を発症した報告(ACGIH(2004))があるので区分1(呼吸器系)とした。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	分類できない	ラットに3%の被験物質を6ヶ月間胃内投与した試験で食道粘膜の慢性炎症がみられ(PATY(5th, 2001))、また、職業ばく露により、労働者が胸焼けや便秘などの消化器症状の訴え(PATY(5th, 2001))、また、女性労働者 117 人の横断研究においてばく露を受けた労働者が対照に比べ慢性咳嗽、胸部ひっ迫、鼻カタル、副鼻腔炎の有病率が有意に高かったとの報告(ACGIH(2004))もあるが、いずれもデータ不足で分類できない。
誤嚥有害性 (吸引性呼吸器有害性)	分類できない	データなし。

12. 環境影響情報

混合物として試験したデータはないため、各成分(原体)の有害性情報を以下に示す。

12.1 生態毒性

12.1.1 グアニジン塩酸塩

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない	データなし。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない	データなし。

12.1.2 酢酸

危険有害性項目	分類結果	分類根拠・問題点
水生環境有害性 短期(急性)	区分3	甲殻類(オオミジンコ)での 48 時間 EC50 = 65000 μg/L(AQUIRE, 2010)であることから、区分3とした。

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

水生環境有害性 長期(慢性)	区分外	急速分解性があり(BODによる分解度:74%(既存点検,1993))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=-0.17(PHYSPROP Database,2009))ことから、区分外とした。
オゾン層への有害性	分類できない	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていないため。

12.2 残留性・分解性

12.2.1 グアニジン塩酸塩

残留性	利用可能なデータが限られており、残留性を完全に評価することができない。
分解性	データなし

12.2.2 酢酸

残留性	データなし
分解性	データなし

12.3 生物蓄積性

12.3.1 グアニジン塩酸塩

生物蓄積性	低濃縮性
生物分解性	難分解性

12.3.2 酢酸

生物蓄積性	log Kow が低いため、生物蓄積すると予想されない。
生物分解性	良分解性

12.4 土壤中の移動性

土壤中の移動性	水溶性が高いため、土壤中で高い移動性を持ち、水環境中に移動する可能性があることが予想される。
---------	--

12.5 他の有害影響

オゾン層への有害性	データなし
-----------	-------

13. 廃棄上の注意

製品及び残余廃棄物	内容物/容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに業務を委託して処理すること。
	廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。
	環境への放出を避けること。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
	完全に空でない場合は、製品入り容器と同様に処分すること。
	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。

14. 輸送上の注意

14.1 国際規制

国連番号 (UN Number)	2970 (酢酸:溶液、酸が 10 重量%を超えて 80 重量%以下含むもの)
国連出荷正式名(国連出荷名) (UN Proper Shipping Name)	ACETIC ACID SOLUTION (酢酸溶液)
国連分類 (輸送時の危険有害性クラス) (UN Transport Hazard Class)	8 (腐食性物質)

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

容器等級 (Packing Group)	III
ラベル	Corrosive
海洋汚染物質	非該当
ユーザー向け特別注意事項	ADR/RID(陸上規制)、ADN(内陸水路規制)、IMO/IMDG-Code(海上規制)、ICAO/IATA-DGR(航空規制)等の規制に従うこと。 皮膚や眼への接触を避けること。 水路への流出を防ぐこと。 取扱いや漏出時の対応の際は、保護具を着用すること。

14.2 国内規制

海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
航空規制情報	航空法の規定に従うこと。
陸上規制情報	毒物及び劇物取締法、消防法、高圧ガス保安法、道路法の規定に従うこと。

14.3 MARPOL 73/78 付属書 II 及び IBC Code によるばら積み輸送される液体物質：本製品には該当しない。

15. 適用法令

化審法	非該当
PRTR 法	非該当
労働安全衛生法	グアニジン塩酸塩 :名称等を表示すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定) :名称等を通知すべき危険物及び有害物(令和 8 年 4 月施行予定) 酢酸 :名称等を表示すべき危険物及び有害物 :名称等を通知すべき危険物及び有害物 :皮膚刺激性有害物質 ・危険物(引火性の物) ・腐食性液体
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
廃掃法	産業廃棄物
麻薬及び向精神薬取締法	非該当
覚醒剤取締法	非該当
薬機法	非該当
カルタヘナ法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
化学兵器禁止法	酢酸:有機化学物質
大気汚染防止法	非該当
オゾン層保護法	非該当
悪臭防止法	非該当
ダイオキシン類対策特別措置法	非該当
水質汚濁防止法	非該当
下水道法	非該当
水道法	酢酸:水質基準
海洋汚染防止法	非該当
航空法	酢酸:腐食性物質
船舶安全法	酢酸:腐食性物質
港則法	非該当
道路法	非該当

安全データシート(SDS 番号:SDSGA0012-3)
GeneAll Hybrid-Q™ Plasmid Rapidprep:バッファーG3

労働基準法	酢酸:年少者就業制限危険有害物
農薬取締法	非該当
土壌汚染対策法	非該当
水銀汚染防止法	非該当
地球温暖化対策推進法	非該当
フロン排出抑制法	非該当

16. その他の情報

弊社が販売する試薬類は、試験研究用途向けに限定して販売しております。製品を取り扱う前に取扱説明書等を熟読し、専門知識のある技術者、研究者がご使用ください。本 SDS 情報は、徹底的な調査及び/または研究によって得られたものであり、推奨は専門的判断の慎重な適用に基づいています。また包括的とみなされるものではなく、ガイドとしてのみ使用されるべきものです。全ての物質及び混合物には、未知の危険性があるため注意して使用する必要があります。当社では、実際の方法、量、使用条件等を管理することができないため、本書に記載されている取扱いまたは製品との接触に起因する損害賠償責任は一切負いません。本 SDS の情報は、市場性や特定目的適合性の黙示の保証を含め、明示的にも黙示的にもいかなる保証をするものではなく、また品質を特定するものでもありません。

引用文献及び参照ホームページ等

- ・サプライヤー提供の SDS
- ・JIS Z 7252: GHS に基づく化学品の分類方法
- ・JIS Z 7253: GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
- ・化学物質規制・管理実務便覧(化学物質管理実務研究会編集、新日本法規出版株式会社出版)
- ・NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)
- ・ezCRIC+ (日本ケミカルデータベース株式会社)

以上